



公民連携・広域連携による見守りサービス実証実験を開始します

三田市は、認知症のため行方不明となる恐れのある高齢者を見守る新たな仕組みとして、Bluetooth 無線技術を利用したビーコンタグ（BLE タグ）による見守りサービス実証実験を、令和6年1月22日より順次開始します。実証実験の実施にあたり、公民連携・広域連携（兵庫県、加古川市、民間企業等と連携）で取り組みます。

記

1 背景

①高齢化の進展により認知症高齢者の数が増加

➡ 一人で外出した人が行方不明になり、家族等が探したり、警察に保護されたりするケースが発生

②本市は現在、GPS 端末を無償貸与し、認知症高齢者が行方不明になった際、家族等がスマートフォンアプリで居場所を特定するサービスを提供（位置情報を速やかに特定可能）

➡ 2週間に1回程度の充電が必要なことや、外出時に持ち歩くことが難しい場合もあり、適切に管理できる家族や支援者が居ない場合等において利用が難しい。

2 実証実験の内容

①ボタン電池で約1年間は動作可能な小型軽量端末である BLE タグを見守りが必要な人が携帯します。

➡ 必ず持ち歩くような物に取り付けたままにしやすい。

②BLE タグの位置情報を検知するための仕組みとして、公民連携・広域連携で検知器（固定式、アプリ）を市内に増やします。

➡ 見守りネットワークの構築

[固定式]：見守りが必要な人の自宅や公共施設等に設置します。また、民間事業者が設置している検知器についても、本事業の見守りネットワークで利用できます。

➡ 公民連携の取り組み

[アプリ]：民間企業3社のタグを検知できる加古川市開発の「広域見守り検知アプリ」を利用します。加古川市でアプリを入れた人が三田市に来た場合も検知に協力できます。 ➡ 広域連携の取り組み

③BLE タグによる見守りがどのような効果があるのかデータを分析して検証します。



BLE タグによる見守りサービスのイメージ図

3 公民連携・広域連携

・本実証実験は、本市が採択を受けた兵庫県の「ひょうごスマートシティモデル地区」における実証事業と、加古川市の「官民連携広域見守りサービス実証」への参画により取り組みます。それぞれ、民間企業が参画しており、公民連携の推進を図ります。

・加古川市は、これまで複数の民間企業の BLE タグを検知できるアプリの開発を続けています。



加古川市の広域見守り検知アプリイメージ図

4 当面のスケジュール

- | | |
|--------|--|
| 令和6年1月 | 準備（実証実験参加者への説明、BLE タグ貸与、検知器の設置）
広域見守り検知アプリのインストール（関係者のみ）
実証実験を順次開始 |
| 令和6年2月 | 実証実験参加者へのアンケート実施 |

5 その他

・効果検証を行いながら、市としてどのように見守りネットワークを構築していくべきか検討していきます。

<お問い合わせ先>

- ①BLE タグを活用した見守りサービスや認知症等に関すること
共生社会部 健康共生室 いきいき高齢者支援課（担当：久後）559-5070
- ②スマートシティ全般、広域連携・公民連携等に関すること、
総合政策部 未来戦略室 スマートシティ推進課（担当：松本）559-5096